



南海トラフ巨大地震の被害想定を受けて

津波から 逃げ延びるためには



内閣府から南海トラフ巨大地震の津波高・浸水域の推計と被害想定が公表されました。あらためて、市民一人一人が津波から身を守るための手段と方法を考えます。

最大では19層の可能性も

内閣府は8月末に、御前崎市に到達する津波高の最大値を19層と公表しました。3月の第1次報告より最大値が2層低くなりましたが、これは、地形の微細な変化をより正確に反映したため、津波高の精度がより高くなったことによるものです。

被害想定は最悪の場合、県内の死者数は10万9千人に上るといわれています。この想定は、多くの人が自宅で就寝中に被災し、津波からの避難が遅れる可能性が高い冬の深夜を想定しています。迅速な避難と効果的な呼びかけ、津波避難ビルが活用された場合には、津波による死者数は、最大で約8割減少するといわれています。

助からないと諦めないで

この地震・津波の発生頻度は極めて低いため、心配しすぎることは問題です。最大クラスの津波に襲われた場合、実際に避難することは難しいといつて避難をはじめから諦めることは最も避けなければなりません。なぜなら、最大クラスの津波に比べて規模の小さい津波が発生す

る可能性が高いにもかかわらず、避難を諦めることで助かる命を落としかねないからです。

より早く、より高く避難

東日本大震災の教訓から、命を守ることを最優先とすることは言うまでもありません。津波から身を守るためにはいち早く避難することが大切です。

津波注意報や津波警報を聞いたら、ただちに避難してください。津波の速度はとても速いので、数分の差で命を落とすケースもあります。1分でも早く、1層でも高い場所に避難することが大切です。貴重品を取りに戻ったりせず、迅速な避難を徹底してください。

同報無線、防災メール、防災ブ로그、フェイスブック、ツイッターなどで津波警報などを確認することも大切です。避難する場所は海岸や川から離れた高い場所や鉄筋コンクリート造りなどの堅固な建物の3階以上が目安です。予想される津波の高さやハザードマップの浸水区域を過信しないでください。想定にとらわれず各自で最善をつくすことが生き延びることにつながるのです。

